

はっぴい新聞

児童発達支援 放課後等デイサービス

 1月号
 2023 vol.34

児童発達支援

親子支援

ひまわり教室では保護者のご要望に応じ、親子支援を行っています。(子どもとのより良い関係をご要望で行う場合が多いです。) 支援では必要に応じて親・子ども・指導員三者と遊ぶ時間を取り入れる事もあります。今回は、遊び時間の中で指導員が気にかけて実践しているごく一部をご紹介しますと思います。

1, 具体的にわかりやすくすぐに褒める。→

〇〇ちゃん、ブロックを渡してくれてありがとう。(褒められた行動を増やす。子供の自尊心を高める。)

2, 子ども自身が発した言葉を繰り返す。→

子: 車作ったの。保: 車作ったのね。(こちらが、話を聞いていることを子どもに示す。)

3, 子どもの遊びを真似る。(子どもと同じ遊びをする。) →

子ども: ブロック遊び。保: ブロック遊び。動かし方も真似る。(遊びのリードを取らせる。子どもの活動を認める。)

4, 子どもの行動を説明する。→

「今、〇〇ちゃんは赤のクレヨンでりんごを描いているね」(子どもに注目していることを示す。子供の行動を容認していることを示す。)

5, 子どもと遊ぶことを楽しむ→

表情豊かに笑顔で・明るい声で・目を見る。(楽しさを表現すると、一緒に遊ぶあたたかみが増す)

☆この際の注意点

子どもが好ましくない言動(相手が怪我をする行動はすぐに止める)は、何も反応はせず、その場はスルーします。なぜスルーをするか? → 反応すると、不適切な行動でも報酬となり勘違いするからです。

子どもにお願い・提案・質問はしない。批判もしない。→

「〇〇してほしい。」「こんなはどう?」「〇〇作っているの?」「それは、間違っているよ」等は言わない。

以上のことを意識しています。(もっと詳しく知りたい方は、お知らせください。)

「このようなことをして、子どもが舞い上がらないか?」と、疑問が湧いてくることと思います。子どもは、保護者が思うより、注目されることを求めています。こちらが子どもの真似をすると想像以上にとても喜びます。褒められたり、認められたりすると、「またやろう!」と子どもはその行動(「正の行動」)を増やします。

親子支援でいらした保護者の方には、家庭の中でも上記の1~5の意識を取り入れていただく事をお勧めすることがあります。毎日の生活の中で5分から、週に数回から、必ず保護者の余裕がある時に行うことが大切です。(この時間が、子どもが成長する中で大きな原動力の1つとなります。) コンスタントに楽しんで長く続けることがポイントです。行なった後は、保護者自身も褒めて頂きたいです。なれない事と感ぜられる方もいるとは思いますが、子どもとの関わる時間が充実し子どもとの関係が良好となったエビデンスが日本でも世界中でも報告されています。

大人は子どものためを思って、気づかず上から物を伝えてしまう場面があります。時には、上記に示した関わり方は、いかがでしょうか?

数十年前までは、行われていた教育ルール・子育て(考え方や手法)は変化していきます。今、この時間も変化しています。自分より年上の方々からの話の体験談に自分の子育てに不安を覚え気持ちが揺らぐこともある事と思います。常に保護者はその時代の子育ての岐路に立たされています。新しい情報に保護者の方々も、悩みが出てくることはごく自然なことです。なぜならば、保護者は、変化する教育ルール・子育ての中にいるからです。

不安な事が出てきましたら、ご遠慮なくひまわり教室にお話ください。保護者の方に、いつも心に太陽を持って頂きたいです。ひまわり教室は、お子様・保護者の方々を精一杯支えたいと思っています。



放課後等デイサービス

体づくり運動

12月の運動プログラムは「体づくり運動」でした。色々な運動を通して体を動かすことの楽しさを知り、自分の体の調子を知ったり仲間と交流することをねらいとしています。ひまわり教室では、ストレッチやサーキット運動、リズム運動などを行いました。

ストレッチをしているときに筋肉が伸縮する感覚に意識が向くように声掛けをすると、多くのお子様「気持ちいい〜」「のびてる〜」など感想を言ってくれました。自分の体に向き合い、リラックスする時間になったのではないのでしょうか。サーキット運動ではジャンプやくぐる動作、回転する動作など色々な動きをしました。1回あたり2分程度ですが、軽く息があがって汗ばむくらいの運動量でした。以前と比べると運動が上手になっているお子様も多く、成長を実感できる活動でした。リズム運動ではジェンカやジンギスカンなどのダンスを行いました。音楽に合わせて見本通りの動きをするダンスは、「見る」「聞く」「動く」という複数の要素が絡んでいるためとても高度な活動です。仲間と一緒に楽しく体を動かし、一体感を味わってもらえたと思います。



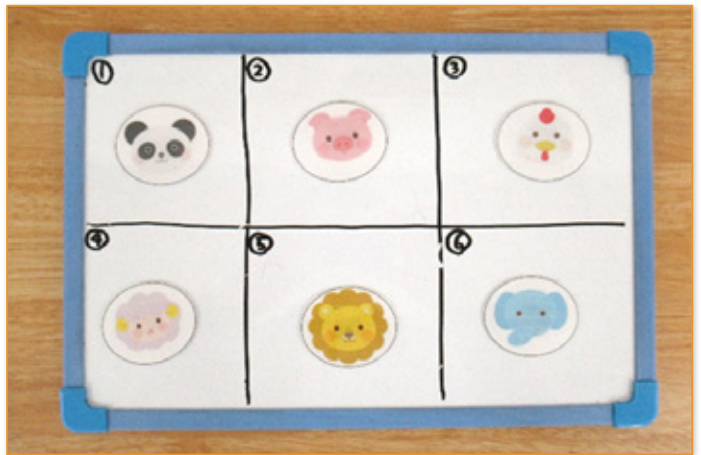
記憶力ゲーム

12月の机上課題は「記憶力ゲーム」でした。

「何がどこクイズ」はホワイトボードに貼り付けたイラストの名前と位置関係を見て覚えるクイズです。お子様の興味に合わせてアニメのキャラクターやケーキ、偉人などのイラストを使いました。「数字記憶ゲーム」は指導員が読み上げる数字を聞いて覚えて復唱するゲームです。この2つのプログラムは短期記憶を使って取り組むものでした。

それに対して、すでに知っている知識を問うような「○×クイズ」や比較的長い物語を聞いて後から内容を答える「絵本クイズ」は長期記憶を使って取り組むプログラムです。

何かを記憶しようとするとき、人によって色々なやり方があると思います。語呂合わせが覚えやすい人もいれば、とにかく反復するほうが性に合っている人もいます。教室でのプログラムで楽しく記憶する経験を通し、お子様自身で自分に合った方法を見つけられるきっかけになればと思います。



子育てハート便



小・中・高 教諭 保田

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。皆さんは、2023年をどのような年にしたいですか。私は人と関わるお仕事なので、今年も心身ともに健康第一で過ごしたいと思っています。

大きな目標は決まっていますが、朝起きてからすぐ動き出したい性分なので、前日寝る前に明日の「やることリスト・楽しみなこと」を書いてから寝ます。人生は80歳まで生きると4000週間だ

そうです。こう聞くと短い気もしますが、私自身、もう5分の2は過ぎ去ったという計算になります。技術は進歩し、便利な時代なのに、なぜか大人も子どもも忙しい日々を送っているように感じます。そんな中でも、子どもたちがひまわり教室のドアを開ければ、悩みや不安を一旦忘れて元気が湧いてくる。安心して過ごせる。そんな居心地の良い場所であれば幸いです。今年もひまわり教室で、楽しい活動を用意してお待ちしております。

WISC-IV 知能検査

お子様に合った
関りを知るために

対象：5歳～16歳11ヶ月

料金：5,000円

公認心理士：金井

